



# 新渡戸記念 中野総合病院 だより

Nitobe Memorial Nakano General Hospital

5月号

平成30年5月1日号

東京医療

住所 東京都中野区中央四丁目59番16号

TEL 03-3382-1231 (代) 夜間受付 03-3382-9991

ホームページ <http://www.nakanosogo.or.jp> E-mail [soumu@nakanosogo.or.jp](mailto:soumu@nakanosogo.or.jp)

第347号

発行人/理事長 入江 徹也

発行責任者/総務課長 横井 悟

## 開かれた「新渡戸脳研」をめざして

新渡戸記念中野総合病院 神経内科臨床部長 兼 脳神経研究室「新渡戸脳研」室長 内原 俊記

生前にアルツハイマー病と臨床診断された患者さんでも、亡くなられた後に解剖させていただき顕微鏡で脳を観察すると、アルツハイマー病とはいえない例が3分の1程度含まれているといわれています。こうして1例1例確認することが、診療や研究の原点となります。

当院でも認知症やパーキンソン病の患者さんが多数おられ、不幸にしてお亡くなりになった場合は解剖をお願いし、検討会を毎月続けてきました。前職の東京都医学総合研究所では脳の顕微鏡観察を中心とした研究に従事しましたが、当院で解剖された100例以上の脳を検討させていただく機会に恵まれました。

今後は当院で脳の検討も行うことになり、新たに「新渡戸脳研」を設置していただいたことは先月の本紙でご紹介があったとおりです。その御縁で脳研責任者として今回入職させていただきました。開設にあたり、多くの方々のご理解とご支援を頂戴し、誠にありがとうございました。このように患者さんの診療と脳の顕微鏡観察の両方が可能な施設は大学病院でも一部に限られ、民間の医療機関ではほとんど例がありません。私自身も神経内科を中心に診療にも参加させていただきますが、その場で顕微鏡観察までできるというこの恵まれた環境は、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症等、他の難治性神経疾患の診療や研究に大きなインパクトを与える可能性を秘めています。

また、中野区には高い意識をもって専門性を高め

ている在宅医の先生方が多数おられます。在宅でお看取りとなった方でも、「新渡戸脳研」で同じように脳を顕微鏡で観察できれば、診療や研究を深めることができると考え、当院神経内科の融 衆太部長と一緒に在宅剖検事業「おだやかな看取りを明日に活かすみち」を展開してきました。お陰さまですでに30例を超える実績があり、新聞や業界誌\*でも紹介されるようになってきました。すでに診療では地域連携が進んでいますが、脳の観察も地域の先生方と一緒に進めることができれば、地域連携は研究へも深まります。実際、中村診療所の中村 洋一院長、三五医院の三五 美和院長、さくらクリニックの佐藤 志津子院長など地域の先生方が学会筆頭演者、論文共著者として貢献してくださっています。

知識や経験がなくても、脳の形や染色した標本が美しいことは、直ちにわかります。経験や職種を問わず、興味のある方はどなたでも脳を観察できる場に「新渡戸脳研」をしたいと思います。研修医や他科の先生、在宅医の先生方はもちろん、看護職、医療技術職、事務職の方々もどうぞご遠慮なく新渡戸脳研を覗いてみてください。近寄り難いと思っていた脳や神経疾患をより身近なものと感じていただくだけでも、当院の医療はより良く、医学的にも深いものになると思います。職員の皆さん、お待ちしております。

\*平成30年3月13日付「産経新聞」

<http://www.sankei.com/life/news/180313/lif1803130037-n2.html>

平成29年4月3日付「週刊医学界新聞」

[http://www.igaku-shoin.co.jp/paperDetail.do?id=PA03218\\_03](http://www.igaku-shoin.co.jp/paperDetail.do?id=PA03218_03)